

合併構想 学習シンポジウム



主催:合併構想委員会

みんなで語るわたしたちの未来

～合併したらどうなるの?～

2021年5月14日(金) 14:30～16:30

開催方法:web(ZOOM) ID:87021415282 パスコード:905610

14:30～ 開会あいさつ 構想委員会委員長 小森 佳子

問題提起

構想委員会事務局長 志形 学

第1部

基調講演

「医療福祉生協、民医連との関わりから今回の合併を考える」

医療生協かわち野副理事長 楠根診療所所長 高橋 泰行 医師
(元)医療福祉生協連合会 会長理事



第2部

15:35～ パネルディスカッション

■パネリスト■ テーマ 「法人のこれまでと私たちの考える未来」

なにわ保健生活協同組合
よどがわ保健生活協同組合
ほくせつ医療生活協同組合
医療生協かわち野生活協同組合
生活協同組合ヘルスコープおおさか

山下 理事長
安達 理事長
江口 副理事長
藤田 理事長
中谷 副理事長

「生活協同組合ヘルスコープおおさか」
「医療生協かわち野生活協同組合」
「なにわ保健生活協同組合」
この3生協は、2023年春の法人合併をめざし3か年計画を立てて「変わってからの合併」をスローガンに準備を進めています。
「よどがわ保健生活協同組合」
「ほくせつ医療生活協同組合」
この2つの生協は、この法人合併への合流に向けた検討を行っています。
組合員、職員の皆さん
協同組合の未来に希望と確信を持ち、自ら参加したい、働きたいと思えるような新しい生協づくりに向けてあなたのご意見をお願いします。



◆当日の接続確認 13時～随時OKです

接続トラブルは、植木(ヘルスコープ) 携帯 070-5547-9647まで

当日の質問・意見は、チャット FAX 06-4257-3311

新しい法人の理念・ビジョン・長期計画
づくりをスタートさせよう

合併構想委員会事務局

合併構想委員会

毎月開催

(任務)

新しい生協の理念、ビジョン、長期計画策定

(体制)

合併推進本部、組合員、職員（事務局、若手管理部）

理念とは

「会社や組織は何のために存在するのか」「事業経営をどんな目的でどのように展開するのか」といったように、組織の存在意義や基本的な価値観を表すもの

ビジョンとは

理念を実現するためにより具体的な方針をさし示すもの



現在の合併 5 法人のそれぞれの理念

ヘルスコープおおさか

「私たちは、住民のいのちとくらしをまもり、みんなで支え合い、笑顔あふれる健康なまちづくりをすすめます」を基本理念として行動します

ほくせつ医療生協

私たちは、平和をまもり、「命の平等・安心して暮らし続けられるまちづくり」のスローガンのもと、明るいまちづくりや健康づくりが実現できる、民主的な医療生協をめざします

医療生協かわち野

「協同」と「連帯」の力で、いのちと人権をまもる医療・介護と健康づくりを目指します

- 一．わたしたちは、地域住民・組合員の健康づくりを支援するたちは、事業と運動を推進します
- 一．わたしは、患者・利用者・組合員が主人公の質の高い医療・介護サービスを提供します

なにわ保健生協

- 1．保健・医療・福祉を通じて地域社会に貢献します
- 2．組合員の権能と生活文化の向上のため奉仕します
- 3．安心してくらし続けられるまちづくりをすすめます

これまでの合併構想委員会での意見

- ・ 理念をみてその団体が何をしているところかが明確になるようなもの
- ・ 事業のことだけでなく「生協活動」という言葉を理念の中にいれるべきでは
- ・ 平和というキーワード
- ・ いのちの平等というワードははずせないのでは
- ・ 企業論からではなく協同組合論で理念づくりをすすめていくべき
- ・ 「生協活動」をひろげて「協同の力」という表現は
- ・ 理念を作るプロセスに多くの職員と組合員に関わってもらうことが必要

合併構想員会で出された理念（案） 抜粋

「つながって おおさか まるごと健康都市」

「守るものは、いのちと暮らしと健康です～つながり
あるあたたかい大阪～」

「地域でつながり、協同して行う医療・介護・福祉の
事業と生協活動を通して、ひとりひとりのいのち輝
く健康なまちづくりをすすめます」

「地域毎の困り事に真摯に向き合い解決に向けて介
護・医療・保健等のネットワークを広げながら健康
で心豊かなマチ 大阪をめざしていきます」

合併構想員会で出された理念（案）抜粋

「わたしたちはいのちの平等をつらぬき笑顔あふれるまちづくりをめざすために、地域とのつながり、協同の力で医療・介護・福祉を実践します」

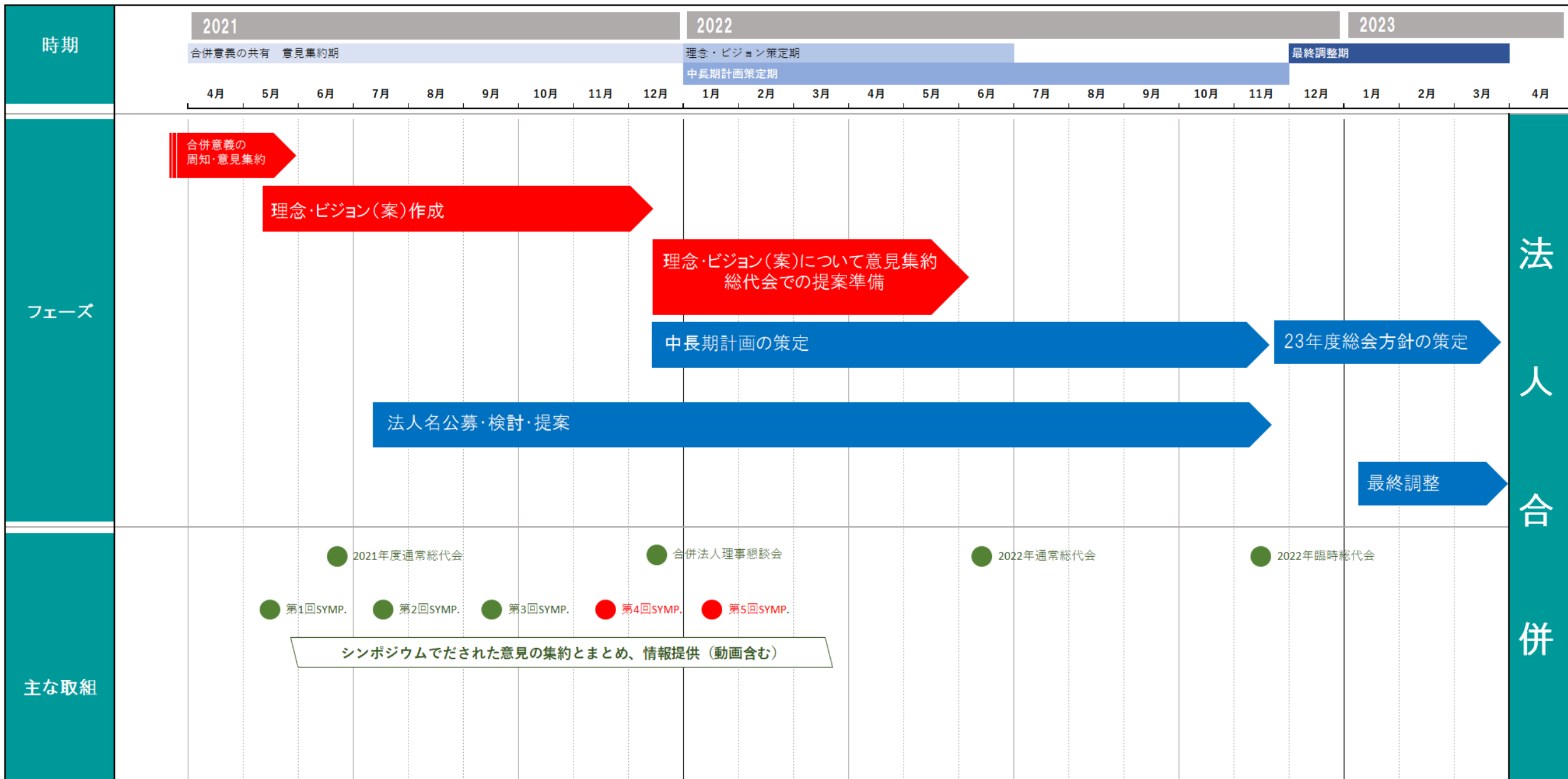
「私たちは命の平等を貫き、医療介護福祉事業を通じ協同のちからで地域まるごと健康づくりを実践します」

「私たちは広範な人々と協同し安心・安全な医療・介護サービスの提供に努め、多様性が尊ばれる平和な社会の実現を目指します」

理念ビジョンづくり進めていくために

合併の意義・目的や各法人の歴史や合併への展望、各法人の組合員活動や各事業所で取り組んでいる医療介護の内容など、学習を深めていくようなシンポジウム、学習会を順次開催していき、全職員・組合員の意見を集めながら理念・ビジョンづくりを進めていく

法) 合併構想委員会ロードマップ(案)



法人合併をめざして

ヘルスコープの歴史を受け継ぎ、
医療、福祉の協同組合の可能性と未来を開く

日 時 2021年5月14日（金）

ヘルスコープおおさか 副理事長

合併推進本部 本部長

中 谷 清

旧大阪中央医療生協(1969年創設)のルーツ

1948年9月

岩田歯科開設

1949年4月

上二診療所開設

1950年3月

上二病院開設

現住所

中央区上本町西2丁目

1970年3月までの20年間



桑原 秀武 先生

- 上二診療所～上二病院創設者で1978年まで院長を歴任
- 1953年全日本民医連結成に参加し、西日本に民医連院所を開設するために奮闘し医師を各地に派遣。
- 民医連綱領の作成に中心にかかわった医師。

【上二病院の開設・創世期】

戦後まもなく戦前の無産者診療で活躍した医師が中心になり「**関西医療民主化同盟**」が結成され、**西淀病院の開院（1947年）**さらに大阪の中心部に**上二病院（1950年中央区上本町西一丁目）**が開院されました。

当時の上二病院と西淀病院は、西日本の拠点病院となり耳原病院、相川病院をはじめ近畿一円、西日本各地に医師を派遣し各県に民医連の病院や診療所開院に大きな役割を發揮しました。

1963年には、部落差別のあった東大阪市蛇草地域に民医連の診療所建設運動がおこり**上二病院から医師と看護師、事務長が派遣され蛇草診療所が誕生**し後の東大阪生協病院へとつながっていきました。

1970年3月上二病院新築移転

大阪市中心部上町1丁目



2002年11月まで32年9ヶ月間診療。夜間人口が少なく、大病院が集中する地域で、経営困難がつづく

城東鶴見保健生協のルーツ

1953年11月岩井医院が民医連に加盟

1957年1月蒲生厚生診療所に改組

1953年9月城東診療所開設

木下栄作先生が所長に就任

1955年7月野江診療所開設

- 1946年に奈良民医連に大阪から派遣され、岡谷診療所の所長、53年城東診療所長就任
- 医療部会の運営委員長を歴任し、組合員による血圧測定など先駆的に取り組む

木下 栄作先生



岩井 彌次先生

- 戦前、天皇制の野蛮な弾圧のもとで無産者診療所づくりの第1人者。戦後は、関西民主化同盟の初代会長。
- 自宅であった岩井医院を蒲生厚生診療所として今日に至る



赤川診療所

旧旭医療生協(1954年創設)

1955年9月赤川診療所開設

翌年に民医連に加盟

➤ 旧生野医療生協
1959年創設

1951年4月田島診開設



なぜ法人合併に取り組んだのか、どう変化して合併が実現したのか

大阪民医連第4次長期計画法人の統一合併を推進の方針

法人合併で困難を切り開いた軌跡

- うえに病院がある旧大阪中央医療生協は、**累積赤字が9億を超え日本の医療生協の中でも最も経営困難の生協**
- 困難を打開するために大阪民医連は、専務理事を同仁会から派遣し、法人合併に向けた検討具体化を推進。
- 「**病院新築移転**」「**変わってからの合併**」を合言葉に班会開催、健康チェック、1万人の大腸がん検診など広げ、組合員ふやし、出資金ふやしが飛躍。
- 各生協の経営の健全化、取り分けても「累積欠損」の解消、出資金増で経営基盤を強化、大阪民医連は「うえにを全大阪的に支援しよう」のアピールを発表。
- **大阪民医連からの支援によってうえに病院の医師体制が充実し、全診療所の経営も改善。**
- 「鶴見緑地公園で1998年に「虹の健康まつり」を32000人の参加



大阪民医連の医師支援・派遣の歴史が両法人の今を支えている

1989年 うえに病院の医師体制の弱体化

大阪民医連幹部医師のローテーション支援 約1年半後

90年 金谷医師が西淀病院から院長として着任

94年 藤本外科医師同仁会より派遣 内科医師2名

95年 水野医師が同仁会から着任

1名循環器の医師派遣 心臓カテーテルを開始

98年 西上医師（現院長）同仁会より着任

03年 青木医師 同仁会より着任

05年 向井現理事長 同仁会から派遣



ヘルスコープおおさかが誕生して何がどうなったの

- 2000年4月に旭医療生協、大阪中央医療生協、城東鶴見保健生協 生野医療生協が合併しヘルスコープおおさかが誕生
- 合併後累積赤字(1億円超)を一気に解消し、合併から3年間「3億の剰余・5千人の組合員・2億5千万出資金ふやし」を達成し、日本生協連から優良生協の表彰を受け、以下の大きな投資を成功させた。
- **2000年介護保険のスタート居宅8・ヘルパー8・デイケア6・デイサービス8・訪問3を開設**
- **2002年12月に コープおおさか病院の移転新築を成功させる・・・長年の夢が実現**
- **診療所4、歯科2、介護事業所の主な開設・新築移転が実現**
 - 2000年10月 田島診療所新築移転
 - 2002年 8月 うえに生協診療所開設
 - 2005年 6月 田島診療所 歯科開設
 - 2006年 4月 あかがわ生協診療所新築移転
 - 2008年 4月 のえ生協診療所新築移転
 - 2009年 8月 生協森の宮歯科の新築移転
 - 2009年11月 グループホーム野江ゆおびか新設
 - 2011年11月 グループホーム放出ゆおびか新設
 - 2012年12月 グループホーム花しょうぶ・小規模多機能なごみ新設



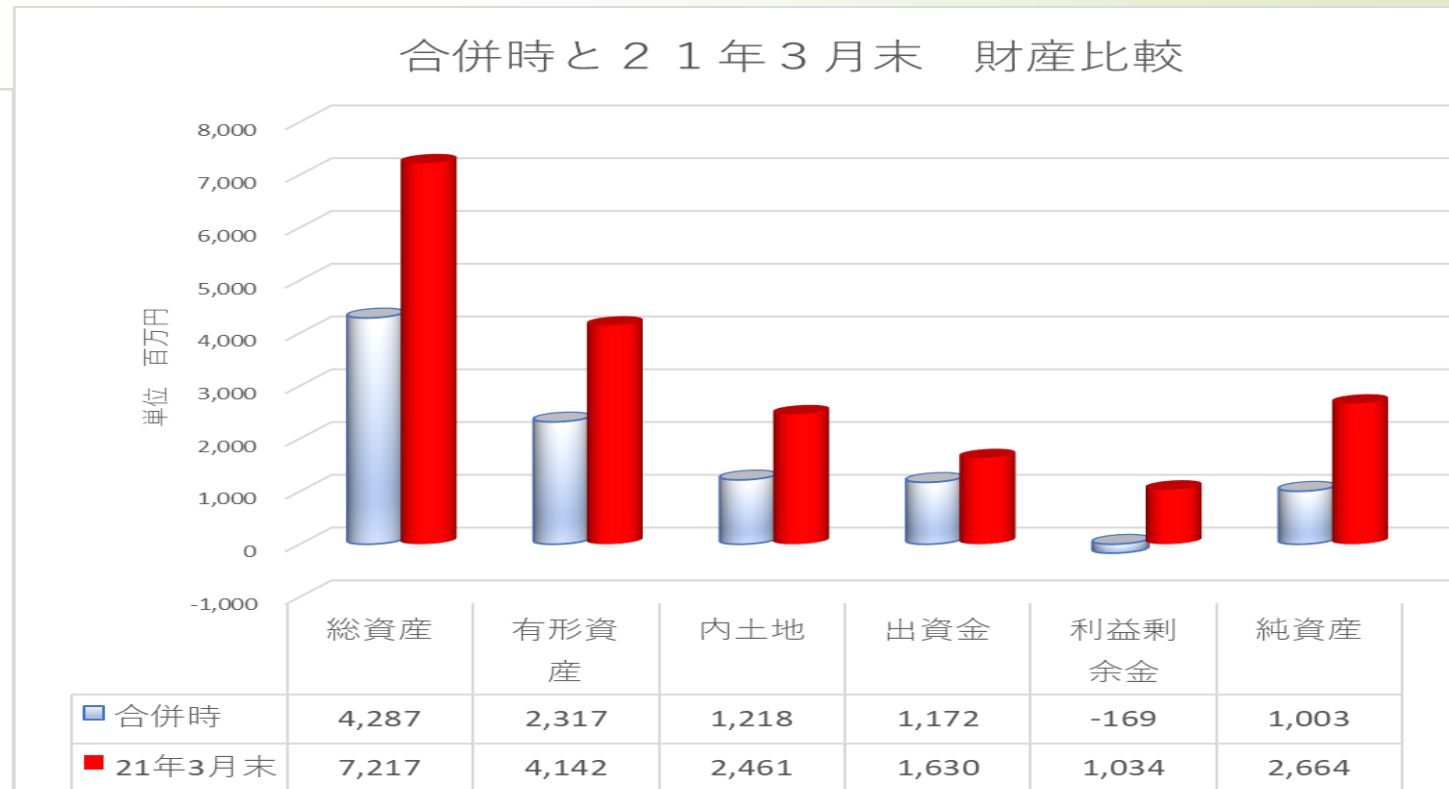
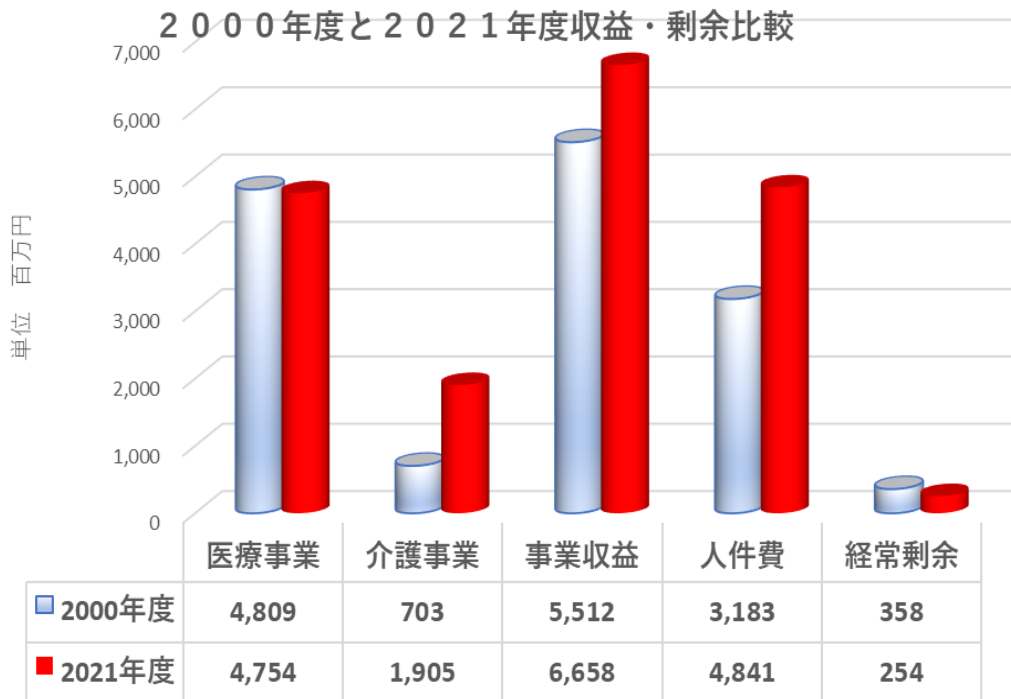
合併時～21年 財産・組合員・収支など何がどう変わったか

合併して21年後にこんな未来があったこと誰も予想していない

- 病院・診療所・歯科の移転新築・介護事業の展開が広がり事業が継続され発展した。
- 純資産が**2.6倍**、土地・建物・設備など固定資産が**1.8倍**に増加し、事業基盤・組合員の財産が蓄積された。
- 事業の展開を支える人づくり、育成、確保が強化された。
- 大腸がん健診受診運動・お元気ですか訪問・たまり場活動など組合員参加がこれらの事業の発展を支えた。

しかし、課題もたくさん抱えている・・・

	合併時	21年3月末	差
組合員数	62560	70887	8327
職員	346	458	112
非常勤換算	109	118	9
合計	455	576	121



合併に期待すること

目先のことなく、10年後20年先を見据えて

- ➡ 歴史を受け継ぐこと・・・何を・どのように
- ➡ 大阪が直面している問題と協同組合の役割を探求する
協同組合だから出来ること
みんなの思い、願いを協同の力で実現
影響力を拡大すること
- 理念づくりへ
人づくり・まちづくり・事業と運動

医療福祉生協、民医連との関わりから合併を考える

大きな夢とロマンを持って、
コロナ禍を乗り越え合併を成功させよう！

2021年5月14日

医療生協かわち野
副理事長 高橋泰行

コロナ禍で今、なぜ合併なのか

- 1、大阪府民のいのちと健康、暮らしをまもるためには、大阪全体を視野に入れた事業と運動が不可欠
- 2、コロナ禍で医療・介護がひっ迫する中、貧困や社会的弱者を救うのは協同と連帯の力
- 3、この事業と運動を担う人づくりは、組合員と職員の広い視野に立った共同作業。人づくりは合併の主要な目的
- 4、どんな事態になってもつぶれない持続可能な経営基盤の確立
- 5、組合員、職員の夢を実現するには合併以外にない
- 6、そのためには医療福祉生協、民医連の発展が必要

「東大阪から民医連の灯を消すな」から始まった
医師支援が「大阪はひとつ」との合言葉で
医師集団の団結を高めた

1、1985年医師支援が始まる。その第一陣として半年間支援
その後多くの青年医師の支援を経て、1986年10月入職
これが東大阪医療生協の組合員との出会いであり、
日生協医療部会との関わりの始まりで、私の医師人生の分
岐点となった

2、この「東大阪医師支援」は、大阪民医連医師政策の転換期
になり、同仁会耳原総合病院とうえに病院（現コープ大阪病
院）、西淀病院と医師交流が進むきっかけになった

医療生協との関わりで、「医療観」「健康観」を学び、医師としての生き方が大きく変わった

1、組合員健診(ドック)は組合員だけでなく市民の健康をまもる手助けになっている

高額なドックではなく無料低額ドック(いのちの協同)

現在、東大阪、八尾、大東四条畷市民のいのちと健康を守る大切な健診(ドック)に医療生協かわち野のがん検診(2019年度)
(東大阪市全体の比率)

肺がん71.6% 胃がん74.9%

大腸がん67.6% 乳がん46.8%

子宮がん28.8%



合併後は健康づくりを科学する「健康づくりセンター」を目指す

2、待っている医療から打って出る医療へ

職員の生協活動の推進

医師を中心に7つの職員チームを結成

其れぞれ地域を分担し、組合員と協同で

健診の勧めや保健大学など学習会を開催

現在の出張健診に繋がっている

このとりくみを通じて職員が2つ任務を体験

職員の2つの任務

1) 医療介護の専門家としての任務

2) 生協組合員としての任務

3、やりたい医療から求められている医療へ

個人的な夢と5か年長期計画

組合員の思いとの乖離した第2期5か年計画

患者、組合員の思いは「消化器病センター」ではなく、「健康増進」「リハビリセンター」

この組合員の思いに応え、消化器専門から健康増進の一般医に転身

病院長、理事長の立場が医師としての役割を変えた

事業拡大が組合員活動を前進させ、組合員が事業と運動を支えた

五か年長期計画を支えた組合員活動の前進

1、組合数、支部、班数、担い手など(別紙)

2、事業拡大

診療所建設(建て替えも)介護施設

支部たまり場

3、今後、上物建設の事業が厳しい中、支部の

まちづくりを支援する事業計画が必要

子育て事業、高齢者支援事業など

医療福祉生協の経営活動の優位点は 組合員参加

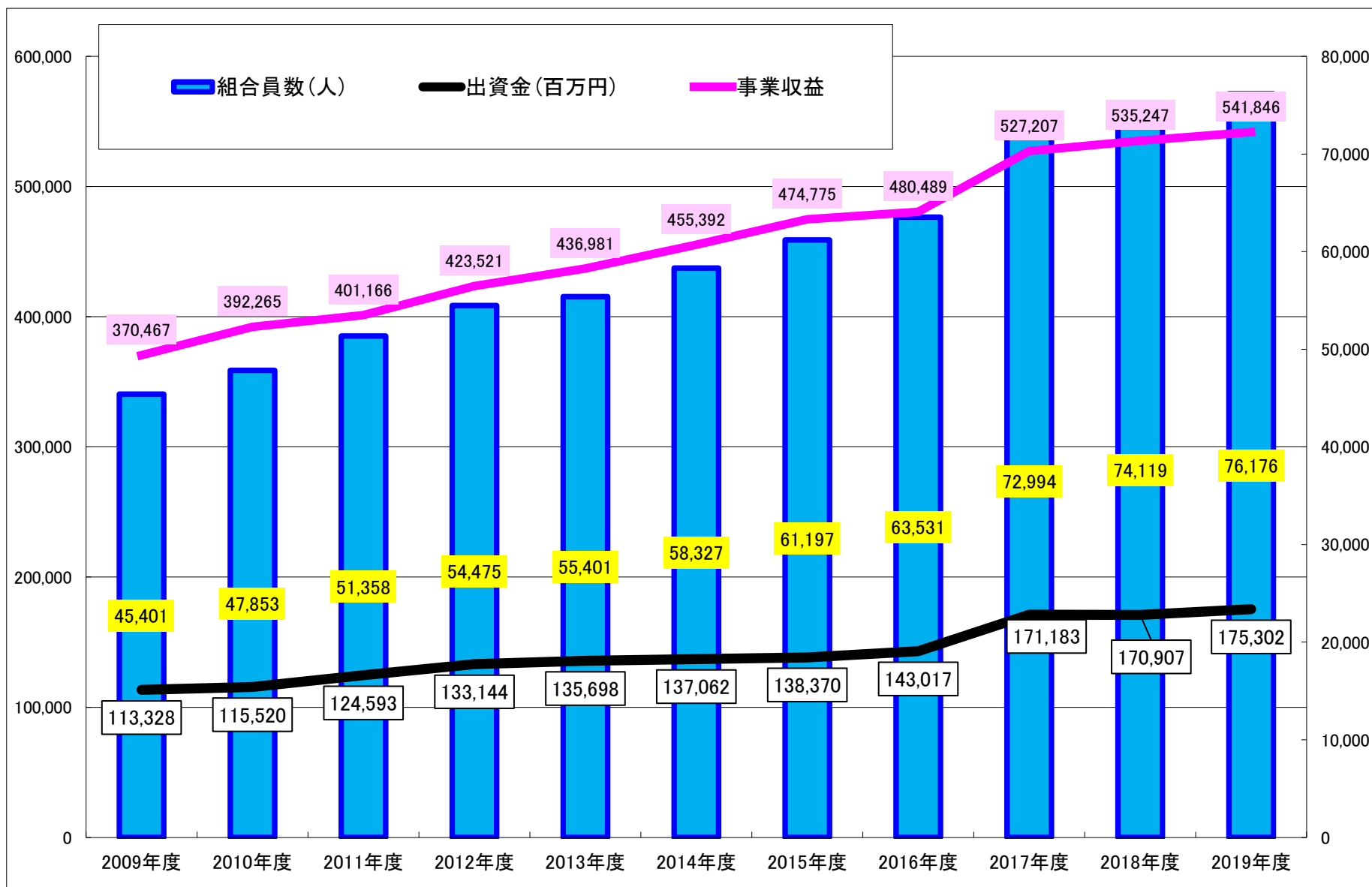
増資から減資の危機が迫っている状況から
組合員の夢を実現する出資金の確保は不可欠
健診から外来へ

健康づくりは経営参加でもある

組合員活動の前進が経営改善に繋がる

組合員数、健診件数と収益（別紙）

組合員と共に事業と運動を広げてきた10年間



労働組合は健康なまちづくり、人づくり、経営の重要なパートナー

- 1、患者、組合員のいのちと健康をまもり、地域の労働者の生活と労働環境改善は労使共通の課題
- 2、経営をまもり、職員の生活を保障するには労使間の信頼関係が不可欠
- 3、労働組合との信頼関係が職員を成長させる
- 4、困難な時こそ、労使の関係がきわめて重要

「地域まるごと健康づくり」は、職員、組合員の 協同と地域住民との連帯で！ そして協同組合の共通の課題であり、合併後は協同 組合間協同が広がる



「協同」と「協同」の力で、いのちと人権を
活かす医療・介護と健康づくりを創出します

●医療生協がむち野生活協同組合
組合員近況 2019年3月31日現在

組合員	75,300世帯
組合員	1,719,913,500円
組合員	22,641円
組合員	7地域医療センター
組合員	175地域センター

2019 No.416

**「誰一人取り残さない」
社会の実現を**

SDGs=世界が抱える問題解決をめざす17の目標

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 持続可能なエネルギーを	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国を豊かにする	11 持続可能な都市を創出しよう	12 つるね消費を
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリーシップで目標を達成しよう	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsって、なに？

持続可能な開発目標（SDGs）とは、貧困や不平等、格差、気候変動などの様々な問題を根本的に解決することを目指す、世界共通の17の目標です。

世界中で達成を目指しています

2015年9月、ニューヨークの国連総会で、世界の国々はSDGsについて合意しました。この合意により、貧困を終わらせ、すべての人が平等な機会をえられ、地球環境を保全し、より良い生活を送ることができる世界を目標として、世界中が努力することが約束されたのです。2016年から2030年までの15年間、世界中の国々はSDGsの達成に向けて取り組んでいくことになります。

医療・介護でお困りのことは
info.rainbow.or.jpまでお知らせください

医療生協かわち野生活協同組合 7577-0332 暮らし支援センター
〒595-0201 大阪府堺市東区大田町1-1-1 医療生協かわち野生活協同組合 4階
各拠点の門前・堺市東区大田町1-1-1 医療生協かわち野生活協同組合 4階（近畿大学）

医療福祉生協との関わりから学んだもの 「競争より協同」「連帯」と地球を救う

- 1、日生協医療部会運営委員長、日本医療福祉生活協同組合連合会会長としての関わりから学んだもの
アジア太平洋地域保健協同組合協議会会長 (APHCO)
国際保健協同組合協議会副会長 (IHCO) としての国際活動
APHCOのバーチャルユニバーシティユニバーシティ構想
ICA、WHO、ILOなどと連帯したとりくみ
WHO世界保健デイ、「高齢者にやさしい都市プロジェクト」
ICA総会に参加し、世界の協同組合運動が「地球を救う」可能性があると確信

ICA(国際協同組合同盟); 112か国318組織 約10億人

民医連綱領、医療福祉生協の理念を実践する
医師養成を組合員との協同で！

「大阪はひとつ」という「東大阪問題」での教訓が生か
されてきている

今、改めて医師養成、確保の課題を大阪民医連の団
結の力でとりくむことが必要

この医師養成・確保の取り組みに組合員が参加する
医療福祉生協の強みをどう生かすか

医療福祉生協連の国際活動を医師養成の場としての
活用を検討（IHCO, APHCO）

バーチャルユニバーシティ構想

2、民医連との関わりから学んだもの

1) 阪神・淡路大震災、東日本大震災の支援活動に於ける 民医連の真価

困難な時に何よりもいのちを守り、住民から信頼される組織

2) 東日本大震災での医療福祉生協の支援

震災後の復興に全国の医療福祉生協が取り組む

3) 医療福祉生協、民医連のあるまちは安全・安心の健康なまち



コロナ禍の困難な状況は、医療福祉生協、 民医連の出番

- 1、コロナ禍でひとのつながりが困難になり、
孤立したコロナ難民も増える
今こそ新たなつながりを模索し、「出会い、
触れ合い、助け合い」をすすめるとき
- 2、民医連の団結と連帯の力を発揮するとき
- 3、ポストコロナは「競争でなく、協同」の時代へ

医療福祉生協の2030年ビジョン

1、健康づくり・まちづくりのビジョン

地域の人びとと「ゆるやかなつながり」を広げ自分らしく生きるための健康づくり、まちづくりをすすめる

2、医療・福祉事業の質向上のビジョン

地域に必要な事業を協同の力で造り出し、くらしの安全・満足を高める

3、経営・組織の発展と人材育成のビジョン

地域の健康とくらしを支えるために「足腰の強い」経営の実現
地域に出て、地域を知り、基本的人権を守る視点を持った
人材育成

4、平和で公正な社会づくりのビジョン

互いを尊重し多様性を認め合う、平和で公正な社会をつくる

今、何を変えるのか、合併に期待するもの

超高齢社会、少子化、人口減少の時代

合併後の医療福祉生協の求められているもの

1、高齢者の社会的役割

医療福祉生協の葬祭事業

2、地域が産み、育て、看取るまちづくり

助産院とデイサービスを併設し、赤ちゃん和高齢者が交流している事例（香川県高松市、特定非営利活動法人「いのちの応援舎」）



新しい医療福祉生協は次世代に夢とロマンをつなぐ
事業と運動に挑戦して頂きたい

地球温暖化、貧困、食糧不足、格差拡大がと地球規模
ですすむ中、国連、WHOなどの国際機関やICA、IHC
O, APHCOと連帯した取り組みをすすめましょう

